

# 大洗おしゃべり広場プロジェクト

地域交流

国際交流

代表者：人文学部人文コミュニケーション学科3年 若松 理央

## 連携先

大洗国際交流協会  
(大洗町役場 まちづくり推進課)

## 顧問教員

金本 節子 (人文学部 教授)

## 参加者

若松 理央 (人文学部 3年)  
安部 ゆかり (人文学部 3年)  
幸坂 佳祐 (人文学部 3年)  
瀬戸 美咲 (人文学部 3年)  
新村 望 (人文学部 3年)  
松浦 舞 (人文学部 3年)  
由一 (大学院人文科学研究科)  
程文静 (大学院人文科学研究科)  
郭恩嘉 (大学院人文科学研究科)  
邵瑜 (大学院人文科学研究科)  
陳松 (大学院人文科学研究科)  
Lies Mustaf (交換留学生)  
Siti Faridah (交換留学生)  
大高 聡史 (人文学部 4年)  
木村 奈緒美 (人文学部 4年)  
関 綾乃 (人文学部 4年)  
水上 咲希 (人文学部 4年)  
山根 舞姫 (人文学部 4年)

## プロジェクトの申請内容

茨城県大洗町は人口17,638人のうち784人が外国人という、外国籍住民の多い地域である。しかし日本人と外国人の関わりが少なく、地域に溶け込めない外国籍住民も少なくなかった。2011年3月11日の東日本大震災発生時、その問題が浮き彫りとなった。多くの外国籍住民は、避難場所も避難経路もわからず、誰に頼って良いかもわからず、大変苦労した。このことを受けて、日本人と外国人の住民同士のネットワークを形成することの重要性を感じた。

昨年度、大洗町国際交流協会と連携をとり、「大洗おしゃべり広場」を立ち上げた。外国人と日本人との交流を通して、住民同士のネットワークをつくること、外国籍住民の相談を受け悩みや不安を解消することを目的とした。我々学生は、大学で学んだ多文化共生や「やさしい日本語」に関する知識を生かし、「おしゃべり広場」の中核を担うと共に、外国人と日本人との橋渡しの役目を果たした。

2年目となる本年度の活動では、昨年度の課題であった参加者の伸び悩み、大洗町役場との連携の在り方を改善し、さらにネットワークを広げていくことを目指す。

### ◆プロジェクトの概要

[目的] 大洗町の外国人住民と日本人住民との交流活性化、ネットワーク形成

[今年度の目標]

- ・参加者の増加

- ・参加者の層を増やす（国籍、年齢）
- ・大洗町役場との連携強化
  - 企画の多様化、広報の多様化
- ・大洗町でのイベントへの積極的な参加により、住民への周知を促進

大洗町では外国人と日本人の交流が停滞しており、東日本大震災のような災害に見舞われたとき、外国人の拠り所となるコミュニティがほとんどない。また、日常生活においても相談できる相手は必要であるが、住民同士でそのような信頼関係が築かれていないことも事実である。そこで、大洗町の新たなコミュニケーションの場として「大洗おしゃべり広場」を立ち上げた。交流を通して、外国人が日常生活で抱える悩みの解消や日本語能力向上への貢献と、地域住民同士のネットワーク広がりを目指す。

「大洗おしゃべり広場」は月に1度開催する。外国人に日本の文化を体験してもらう企画を実施したり、外国人から自国の文化紹介してもらったりと、お互いの文化の相互理解の促進を目指す。また、「おしゃべり」というフランクな雰囲気の中で自由に交流をしてもらうことで、良好な交友関係が築かれることが期待できる。我々は日本文化体験の企画立案、「やさしい日本語」を活かしたチラシの作成、留学生と協力しての他言語表記のチラシや看板の作成、外国人と日本人との会話の手助け等を行う。

昨年度は毎回参加者がほとんど変わらず、特に中高年層の日本人とインドネシア人が多かった。本年度は広報の多様化や企画を工夫することで、中国人や欧米人、日本人の若年層の参加者獲得を目指す。また、昨年度の活動で築かれた大洗町役場との信頼関係を活かし、企画の段階から積極的に連携していくことで、より住民のニーズに合った内容にしていきたいと考えている。

## [本年度の活動内容]

本年度は、前年度よりも「おしゃべり広場」の実施回数を増やし、大洗の日本人住民と外国人住民の交流の機会をより多く設ける。七夕、クリスマスなどの季節の行事にちなんだ企画や、外国料理を実際に作って、文化を知ると同時に交流を深めるための料理教室などを実施する。これらの企画のなかでは、外国人住民と日本人住民が共同で行う作業を盛り込んだり、会話を楽しみながら参加できるようにしたりするなどの工夫を施す。小さな子どもを持つ人々が参加しにくいとの声があり、そのような人々にも「おしゃべり広場」に気軽に参加してもらうため、子どもを対象にしたゲームや、子どもから大人まで幅広く楽しめる企画も準備する。毎回、参加者にはアンケートに答えてもらい、「おしゃべり広場」の満足度や、今後やってみたいことなど意見・感想を参考にし、今後の「おしゃべり広場」を、参加者の外国人にとっても日本人にとってもより有意義なものとするために役立てる。

また、月に一度の「おしゃべり広場」に加えて、大洗町のイベントに外国人住民の積極的な参加を促す。たとえば大洗町で毎年8月に行われる盆踊りや、11月のあんこう祭などである。「おしゃべり広場」で築いた外国人住民と日本人住民のつながりを地域のイベントに参加することでさらに深める。「おしゃべり広場」を含めこれらのイベントの広報には大洗国際交流協会との連携を活かして、Facebookページの創設・更新や、防災無線での呼びかけ、地域広報誌への広告等を利用する。

## [期待される成果]

以下の5つの成果が期待される。

1. やさしい日本語を使った会話でコミュニケーションすることにより、外国人住民の日本語能力の向上に繋がり、外国人と日本

人との情報交換が円滑に進み、地域ネットワークの構築に貢献できる。

2. 同じ地域に住んでいる人が交流を持つことにより、震災などの緊急時に速やかに連携を取ることが可能になる。
3. 身近なトピックによるディスカッションにより、積極的な交流が必要な状況が生まれ、外国人と住民の相互理解のきっかけとなる。
4. 子どもを対象にしたゲームなどにより、子どもを持つ人達も参加しやすくなり、より多くの人がおしゃべり広場を楽しむことが可能になる。
5. 中国人、インドネシア人留学生の参加により、同国出身の方の日本語や生活の問題への対応がよりスムーズになる。

### プロジェクトの実施概要

大洗国際交流協会と連携し、大洗町在住の外国人と日本人を中心として地域の国際交流、参加者の拡大を目的とする。大洗町では人口の約5%を外国人住民が占めている。東日本大震災を受け、改めて地域住民におけるネットワークの強化の必要性を感じた。そこで、大洗町の新たなコミュニケーションの場として「大洗おしゃべり広場」を立ち上げた。活動を通して、外国人が日常生活で抱える悩みの解消や日本語能力向上への貢献と地域住民同士の交流活性化を図ってきた。

### ▼主な活動内容

①地域・国際交流活動	外国人と日本人の交流を目的としたイベントの実施
②防災支援	東日本大震災を受けて、在住外国人と地域住民間のネットワーク強化
③広報活動	広報活動の強化

④地域イベントへの参加	地域イベントへの参加
⑤他プロジェクトとの企画連携	大洗応援隊ほげほげCafè との共同企画の実施によって交流の場を提供

### ▼実施内容

月 日	内 容
7月8日	・ネパールの文化紹介 ・七夕の短冊作成
8月12日	・ブラジル料理教室の開催。
9月2日	・フィリピンの文化紹介 ・浴衣の着付け体験
10月7日	・スウェーデン派遣中学生の帰国報告 ・インドネシア文化紹介 ・学生によるインドネシアのダンス発表
11月4日	・ペルーの文化紹介 ・フラメンコ教室の方によるダンスと歌のパフォーマンス ・ダンスレクチャー
11月18日	大洗あんこう祭り ・イベント参加による広報活動
12月2日	・クリスマスカードの作成 ・ポットラックパーティ
1月27日	おしゃべり広場と大洗応援隊ほげほげCafè との共同企画 ・凧づくり ・かるた体験 ・餅つき体験
2月3日	・中国文化紹介



おしゃべり広場8月の様子

## プロジェクトの成果報告

本年度のプロジェクト活動による主な成果は以下の通りである。

### ●参加者数の増加、参加者の国籍の多様化

今年度は新たな企画を多く取り入れた。

町民であるブラジル人主婦を招き、ブラジルの郷土料理教室の回を設けた。これにより普段は少ない親子連れの集客に成功した。

また、大洗町はスウェーデン・ニイショーピング市と友好都市交流を行っており、町の中中生らがスウェーデンへ交換留学している。広場では、交換留学をしてきた中高生を招いて、体験してきたことをプレゼンしてもらった。その際、彼らを普段指導している数名のイギリス人ALT教師たちがプレゼンを見に来てくれた。それ以前のイギリス人の参加はほとんどなかったため、その回の収穫の一つとなった。

ほかにもフラメンコ教室の講師や生徒たちを招いてのダンスパフォーマンス、インドネシアのダンス発表、町民の出身国の文化紹介など、多くの国々の文化に触れられる企画を多く盛り込んだ。その結果、参加者数は徐々に増え、参加者の国籍も多様化するに至った。

### ●大洗応援隊とのコラボ企画による認知度アップ

学生地域参画プロジェクトのひとつである大洗応援隊によるほげほげカフェとコラボレーション企画を行った。このことにより、日頃ほげほげカフェの常連である町民におしゃべり広場の告知を行うことができた。今後の集客数の増加や、参加者層の多様化が期待できる。

### ●役場との連携強化

以前と異なる点としては、大洗町役場との

連携強化も挙げられる。役場側提案の企画も多く取り入れることで双方がより密接に関わりながらプロジェクトを実施できた。また、大洗町で行われるお祭りやイベントに招いていただき、そこでおしゃべり広場の告知を行うこともできた。結果、新たな想の集客に成功したと言える。

### ●今後の課題

広場自体の活性化のためにすべき今後の課題は2つ挙げられる。

1つめは、参加者の外国人の割合をさらに増やすことである。外国人の中には自分の日本語力に不安を抱く方もいる。コンテンツの充実や雰囲気作りなど、いかにして外国人の方が参加しやすい会にするかを考えていく必要がある。

2つめは、新規の参加者を増やすことである。少しずつ参加者が増えているものの依然として大洗町国際交流協会の会員を中心に、特定の人に限られる。常に新しい価値を創造するとともにマンネリ化を防ぐアイデアを盛り込み、初めての人にも参加する意義の見いだせるものにし、リピーターへとつなげていきたい。

そして、このプロジェクトの目的である「外国籍住民と日本人住民の交流」をより一層活性化させる必要があると考えている。